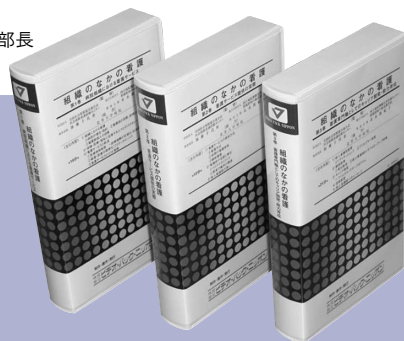


実践から生まれた 看護管理のエッセンス

[評者] 村上睦子 日本赤十字社医療センター看護副部長

組織のなかの看護

加藤千代世・末永真紀子 監修



VHS ビデオテープ全3巻

定価各巻 29400 円(本体 28000 円+税 5%)

株式会社ビデオ・バック・ニッポン TEL. 03-3405-3176

■現場発の看護の組織論

本ビデオは、北里大学病院をモデルに作成された、唯一現場から看護実践の組織論をわかりやすく映像化したものである。新人看護師で主人公の門馬康介さんの存在もこのビデオの魅力を増している。第3巻の「新人看護師教育」では「点滴をするところをみてください」という門馬さんとプリセプターの芦澤圭子さんの間には、自分をみてる人がいること、見守ってくれているということの安心感が漂い、若々しい新人看護師から信頼される先輩との交流が爽やかに映る。内容は、第1巻では、(1)病院の理念／目的 看護部の目標、病棟の目標／看護師個々の目標保健、(2)医療、福祉に従事する人々とのコラボレーション、(3)看護サービスと経済。第2巻は、(1)医療保険制度、診療報酬の仕組み(出来高払い、包括払い)、(2)看護、医療の標準化、クリティカルパス、(3)看護サービスとコスト意識。第3巻は、(1)新人看護師教育、リアリティショック、プリセプター制度、(2)継続教育、現任教育、新人看護師の6か月フォローアップ研修、(3)キャリア開発、クリニカルラダープログラム、(4)目標管理、(5)新人看護師へのメッセージという構成となっている。

■組織のなかの看護とは

本ビデオは、「組織のなかにおける人間のこころ」「人と人との間のこころと行動」のダイナミックさに魅力があり、すばらしいシナリオである。今年の看護部研修の教材にしたいところを動か

された。特に、第3巻の目標管理は、55年前にアメリカでピーター・F. ドラッカーが紹介しベストセラーとなり、日本でも40年前に目標管理ブームが起こった。しかし、「人間性重視のマネジメント」と目標管理の理解不足、準備不足が指摘され、10年程で幕を閉じた経緯がある。それが現在、医療分野で目標管理導入で成功を収めた例が多く紹介され、再び目標管理がブームとなり脚光を浴びている。ビデオでは、病院や看護部の理念を達成するにはスタッフ一人ひとりが目標を設定しなければならず、個々の目標面接が必須であると説き、目標管理が人材育成に連動している。

全巻を通じて気づかされることは、「組織は人なり」という組織論である。特に、院内教育の実践にあたって3つの考え方を示唆している。(1)自己啓発が教育のゴールとなる、(2)職場での仕事自体がOJTに結びついている、(3)教育とは、教える責任と育てる責任を同時に果たすことである。北里大学病院の継続教育システム例での学びは深い。それは、教え、かつ育てることの2つの側面が新人看護師と先輩看護師の適切な語りから理解できる。

職場において、上司は部下の将来について育成のビジョンをもつことが大切である。組織とは、ベテランの力を活かして質の高い看護を提供でき、なおかつ新人を育てつつ安全な看護を提供できると語る、北里大学病院小島恭子看護部長のパッションが内容に重みを添える。まさに、実践から生まれた看護管理の重要なエッセンスが網羅されたビデオである。